

第2回 UAV 活用フォーラム

— 災害調査・救援、防災・減災への活用 —



1. 主旨

近年わが国では頻繁に大災害が発生し、「災害調査・救援」その対策としての「防災・減災」が国を挙げての喫緊の課題になってきています。この2年ほどで急速に普及し始めた UAV が、その中で重要な役割を担い始めています。また災害防止としての社会インフラ土木構造物の維持管理、IT 活用による i-construction 技術が急速に進歩してきました。本フォーラムでは、産官学のそれぞれの立場でのエキスパートの方による講演と、情報交換の場を提供します。

UAV : unmanned aerial vehicle 無人飛行体、(略称ドローン)

2. 開催日：2016年11月21日(月),22日(火)

3. 場所：大田区産業プラザ (京急蒲田駅徒歩3分)

4. 主催：(合) スーパーポイントリサーチ、

共催：(一社)日本写真測量学会、

協賛：(公財)日本測量調査技術協会

5. 会費

公共機関、自治体(活動参加地域住民含む)、大学・・・無料

民間企業(ハード、ソフト、サービス)・・・ ¥5,000

6. 参加申込み、問合せ：スーパーポイントリサーチ

URL : <http://www.sparj.com>

河村 koji@sparj.com 045-482-3073

基調講演1



鈴木真二
東京大学 教授
JUIDA 理事長

基調講演2

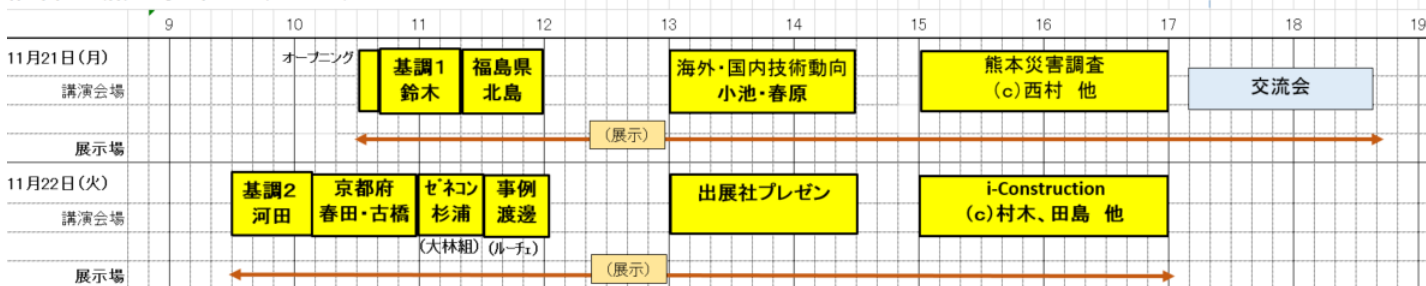


河田恵昭
関西大学 教授
防災問題・第一人者

[基調講演1] 軍用無人機として長い歴史を持つドローンは、近年のホビー用マルチコプターの発達と普及により、空撮用無人機として世界中に広まり、さらに様々な民間産業利用への可能性が期待されている。こうした無人航空機の歴史とその機能を説明したのちに、防災用途に利用する際の技術的課題、制度的課題に関して今後の活動の指針を示したい。

[基調講演2] 災害多発時代に突入しているのも関わらず、基礎自治体などのファースト・レスポンスなどの対応能力は極めて低い。そうした対応が経験則に頼っており、情報の共有と見える化による組織としての対応が不十分である。ドローン活用を含めた IT によるシステム化が欠かせない。

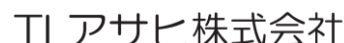
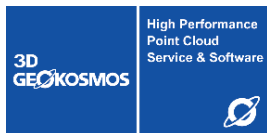
第2回UAV活用フォーラム タイムチャート 2016-09-07



SPONSORS

ドローンに関する最新のハード、ソフト、サービスを展示・紹介

09-28 現在



スーパーポイントグループは、SPAR International, SPAR Europe, SPAR Japan の3拠点でフォーラムと展示会の開催、ニューズレターを発行し、3次元計測およびドローンとその応用に特化したユニークな団体で、全世界にメディア事業を展開する DC (Diversified Communication) の傘下に入っている。 <http://www.spar3d.com/>

基調講演以外の発表者

11/21(月)	
福島県取組 11:20-12:00	 北島 明文 福島県 ロボット産業推進室 室長 ドローンを含めた各種災害対応ロボット評価・訓練施設開設
	 小池良次 米アリアル・イノベーションCEO シリコンバレー駐在。FAA(連邦航空局)など米国の事情に精通
米国・日本のドローン技術現状 13:00-14:30	 春原久徳 ドローン・ジャパン 会長 日本でのドローン活用のパイオニア、非常に詳しい。
	 西村正三 (株)計測リサーチコンサルタント 取締役 総合司会者 およびドローンによる計測技術解説
熊本災害 15:00-17:00	 工藤 忠 (有)エアロサービス T. K. FACTORY 平成5年よりラジコンヘリを用いた空中写真撮影及び写真測量に取組み、安全・確実な空撮作業を行うノウハウ蓄積。熊本への適用。
	 酒井 由希彦 株式会社四航コンサルタント 3次元地上レーザーおよびドローンによる計測結果を、GISと連携。各種高度解析に展開。
	 大津山 恭子 熊本県 山都町教育委員会 生涯学習課 主事 通潤橋の保存管理のために導入した光学的計測手法の利用事例および熊本地震における通潤橋本体構造の変状を発表
	 荒牧 聡 (株)建設技術研究所 九州支社 道路・交通部 被災した熊本城全体をUAV画像で撮影し、GPSデータを用いて三次元画像解析への応用について紹介
	 春田健作 京都府 京都技術サポートセンター ドローン技術導入を推進する取り組みとして、従来技術と比較検証した事例を報告
京都府取組 10:10-11:00	 古橋勝也 京都府 府民生活部 災害対策課 主査 DPCA(ドローン撮影クリエイターズ協会)と災害時におけるUAVの運用に関する協定締結。行政分野でのUAVの活用事例を紹介
ゼネコン取組 11:00-11:30	 杉浦伸哉 株式会社大林組 土木本部 情報技術推進課 ドローンの利用が現在の国交省の基準でどこまで利用できるのか、その場合の課題や解決のための方策を、実データを用いて提言
災害地計測事例 11:30-12:00	 渡邊 豊 ルーチェサーチ(株) 代表取締役 わが国の災害地のドローン調査の実務パイオニア。各種自治体との災害協定をむすび、実施例を報告
i-Construction 15:00-17:00	 村木広和 国際航業(株)地理空間基盤技術部 センシング担当部長 総合司会者 およびドローン活用技術の実態
	 田島 僚 大林組 土木本部 情報技術推進課 i-Constructionで提案された15の基準を大林組では徹底的に検証、本当に省力化・効率化をはかるためにはどうすればいいのか提言。
	 人選中 3次元システム化技術

主催者より；

日本は被災先進国として、世界に誇れる災害対応技術および社会体制を有しています。しかし、ドローンをはじめとするIT技術の活用については、必ずしも世界最先端とはいえません。その技術を駆使し、まずは国内問題に対処するとともに、世界に貢献していくことを国の基軸に据えたいものです。本フォーラムがその気運を盛り上げるきっかけになれば幸いです。 河村